

第6回 「小さくても強い会社」の実現へ  
三つの重点テーマを設定

## 会社紹介

タプロス株式会社

秋田県秋田市寺内字後城322-3

設立：1956年

従業員数：60名

事業内容：一般家庭用・業務用・工業用LPガスの販売、住宅設備機器販売、冷暖房・LPガス配管の設計施工等。大館、能代など5つの営業所を持つ

URL：http://www.tapros.co.jp/

秋田県のLPガス販売大手タプロスでは、改革プロジェクトが進行中。プロジェクトを通じて従業員のレベルアップが図られ、地域の中核企業としてさらに存在感を高めている。

最近では大手企業の合併に関する話がニュースになっても珍しいことではなくなっている。燃料業界でも大手が合併し巨大な企業が誕生している。

このような経営環境の中で、タプロスの木村社長は、「タプロスは、小さくても強い会社になる」という言葉をしばしば使う。これは、他県に業務展開することや全国規模になることを目指すような、規模の拡大ではなく、秋田県で「暮らす」方々に対して、質の向上を目指していくものである。

県内の人々に役立つ企業へ  
質の向上を図る

「小さくても強い会社」を実現するための重点テーマとして、「仕事のための重点テーマとして」「仕事の仕組みを変革する」「組織力を高める」「経営環境の変化に素早く対応する」の3点がある。

重点テーマにはそれぞれ課題があり、課題を解決するための手段としてプロジェクト活動を取り入れて4期目になる。

木村社長は、社内にプロ

ジェクトの考え方を取り入れて実践することを随分前から考えていたようだが、取り組むきっかけが見つからなかったとのことであった。ITコーディネータにシステム障害を復旧することを依頼した際に、業務の見直しを含めた障害復旧プロジェクトの提案を受けて承認した。

プロジェクトは成功し、プロジェクト活動が経営に有効であることを経験したことにより全社的な取り組みが始まった。

IT活用からQC活動へ  
今後は改革のプロジェクト化

3年前の当初は、プロジェクト活動という風土がなくQC活動に近かったと振り返る。過去のプロジェクトの主な取り組みは社内向けの業務改善に対するものであった。

現在ではプロジェクトリーダーが明確な目標設定、計画立案、進捗管理、実行の進め方を理解し強力に推進できるようになった。今まで取り組んできたプロジェクトの実践と成果に基づいて着実に社員がレベルアップしている。

4年目を迎えた今では社内にプロジェクトの考えが浸透し、立ち上げ

が容易になった。「今までのプロジェクト活動は、社内にプロジェクトを根付かせること。これからはプロジェクトを経営に活かしていく」と木村社長は語る。

現在では、社内の業務改革にプロジェクト活動を取り入れ十分な成果が出ており、今後はタプロスの関連会社までITの活用とプロジェクト活動を広めていくことを計画している。関連会社のプロジェクトには、タプロスの社員が参画し蓄積された手法やノウハウを提供していくこととしている。

また、基幹系システムと業務を最適化するプロジェクトが成果を上げており、さらに営業とITを最適にするためのプロジェクトを企画している。

「そこに暮らしがあるかぎり」がキャッチフレーズのタプロスでは、全社員がITの活用とプロジェクト活動を通じて「小さくても強い会社」を実現するための取り組みを常に行っているのである。

(ITコーディネータ 大澤昌氏)

(次号に続く)